

兵庫教育大学 教職大学院

『教育実践高度化専攻』

国際貢献型留学生用

教育方法・生徒指導マネジメントコース
言語系教科マネジメントコース
社会系教科マネジメントコース
理数系教科マネジメントコース
グローバル化推進教育リーダーコース

実 習 基 本 計 画

令和4年4月

目

次

実習の基本計画（国際貢献型留学生）

1	実習の目的	1
2	実習科目	1
3	実習校（連携協力校）	2
4	科目別の実習内容，指導体制，評価方法等	2
5	実習資料の様式	6

実習の基本計画（国際貢献型留学生）

1 実習の目的

実習科目を履修することにより、日本の学校教育に関する基礎的・基本的な知識を修得する。特に、日本の学校教育における学習指導や生徒指導等に関し、理論に基づく実践的方法・技術等の実際を学び、実践的知識と技能を身につけるとともに、母国等において、日本の学校教育における学習指導や生徒指導の理論や実践を還元できる高度な資質・能力を備えた教員の育成を目的とする。

2 実習科目

実習科目は、以下の2科目である。科目名、単位数・時間数、実施時期は以下のとおりである。

実習科目	単位数（時間数）	配当年次
学校体験・基盤実習	6 単位（180 時間）	1 年次後期または 2 年次
学校教育実践実習	4 単位（120 時間）	2 年次

実習の実施時期

実 習 科 目	実 施 時 期
学校体験・基盤実習	1 年次後期に週 4 日（月曜日～木曜日／1 日 7.5 時間）の実習を 6 週間（集中 180 時間）実施することを原則とし、実習期間中は週 1 日（金曜日／1 日 4 時間）のリフレクションを大学で行うことを原則とする。 なお、実習校の事情等によって、週 5 日で実習を行うなど、実情等に応じて実施する。
学校教育実践実習	2 年次に週 4 日（月曜日～木曜日／1 日 7.5 時間）の実習を 4 週間（集中 120 時間）実施することを原則とし、実習期間中は週 1 日（金曜日／1 日 4 時間）のリフレクションを大学で行うことを原則とする。 なお、実習校の事情等によって、週 5 日で実習を行うなど、実情等に応じて実施する。

※ 実施時期については、上記を原則とするが、実習先の事情等に応じて柔軟に対応する。

3 実習校

連携協力校において実習を行う。

(※ なお、留学生が実習校へ通う手段等を考慮し、留学生が居住する場所に近い学校を選定する必要があることに留意する。)

4 科目別の実習内容、指導体制、評価方法

学校体験・基盤実習

(実習内容)

実習校における様々な教育活動に参加することで、日本の学校教育現場における実践的課題となっている事柄について把握し、日本の学校における教員がどのように学習指導や生徒指導を行っているのか等について体験的に学修する。メンター教員のシャドーイングを中心に実習を進めることを原則とする。

(指導計画・体制)

- 実習計画の作成・実施にあたっては、大学の指導教員が助言・指導し、力量向上に資する目標とスケジュールを策定する。
- 実習校・協力施設等に「実習校指導教員（メンター）」を依頼する。
- 実習にあたっては、上記の大学指導教員と実習校指導教員（メンター）が緊密に連携して、実習校の実情に即した実践研究がなされるよう、学生に助言・指導する。
- 学卒院生については週に一度、大学の指導教員と実習に関する省察を行う。
- 大学指導教員は、定期的に実習先の機関を訪問し、メンターと協議しながら、大学院生を指導する。

(実習の概要)

(1) 個別計画の作成準備

- ① 実習における学習目標や課題、体験の内容等を明確化する。
- ② 実習校の現状を把握・理解する。

(2) 実習時期・内容の決定

- ① 入学年の9月までに、大学院生は大学指導教員と実習時期・内容について打合せを行う。
- ② 入学年の10月までに、大学指導教員は実習校に出向き、実習時期・内容を確定する。
※実習校との打合せの日時、実習時期の決定については、実習校のスケジュールを最優先すること。
- ③ 実習開始の1か月前までに、大学院生と大学指導教員は、実習校に出向き、実習時期・内容を決定する。

(3) 実習に関する諸資料について

① 実習計画 [様式(1)－①]

- ・大学院生は大学指導教員の指導を受け、様式(1)－①を作成する。

② 実習日誌・出席簿 [様式(2)－①]

- ・大学院生は、様式(2)－①の実習日誌を毎日記入する。
- ・実習校指導教員(メンター)等からの指導内容の記録は、その内容について実習校指導教員(メンター)等の確認を受け、指導・修正事項があれば、院生が赤で記入する。
- ・大学指導教員の訪問指導を受けた場合は、教員の名前と指導内容を記録する。
- ・実習校指導教員(メンター)等のコメントの記録は、最終日のみとする。
- ・大学院生は、出席簿を作成し、出席日には必ず押印すること。

③ 評価票 [様式(3)－①]

- ・実習校指導教員(メンター)および大学指導教員は、様式(3)－①により、大学院生の実習の成果を評価する。

(4) 実習に関する諸資料の提出について

実習に関する諸資料の提出先と提出時期は、次のとおりである。

① 実習計画書

実習校と大学指導教員：実習1週間前

② 実習日誌

大学指導教員：実習後すみやかに

③ 出席簿

大学指導教員：実習後すみやかに

(評価方法)

実習校指導教員(メンター)による成績評価と大学指導教員の評価を合わせ、最終的にはSからFの5段階で総合的に評価する。

S(90点～100点)、A(80点～89点)、B(70点～79点)、C(60点～69点)、F(59点以下)とし、SからCまでを合格、Fを不合格とする。

評価項目については、評価票[様式(3)－①]を参照。

学校教育実践実習

(実習内容)

コースの課題研究的科目における研究内容と、実習校の研究テーマや実習校で指導可能なテーマとのマッチングを行った上で、実習校における教育実践に関する観察、記録を行うことによって、日本の学校がどのように教育課題に取り組んでいるのか、その方策を理解し、自らの実践力を高めるとともに、研究テーマに即した教育方法・教育内容の開発及び評価の力量を形成し、母国等での教育改善への示唆を得る。

（指導計画・体制）

- 大学指導教員，実習校の管理職，メンターが緊密に連携して実習を進める。
- 各担当の学生について，上記の四者が協力し，実習開始前に個別計画の作成を指導し，実習修了後に成果の評価を行う。
- 大学指導教員は，定期的に実習先の機関を訪問し，メンターと協議しながら，大学院生を指導する。
- 学卒院生については週に一度，大学の指導教員と実習に関する省察を行う。

（実習の概要）

（1）個別計画の作成準備

- ① 実習における学習目標や課題，体験の内容等を明確化する。
- ② 実習校の現状を把握・理解する。

（2）実習時期・内容の決定

- ① 入学年の9月までに，大学院生は大学指導教員と実習時期・内容について打合せを行う。
- ② 入学年の10月までに，大学指導教員は実習校に出向き，実習時期・内容を確定する。
※実習校との打合せの日時，実習時期の決定については，実習校のスケジュールを最優先すること。
- ③ 実習開始の1か月前までに，大学院生と大学指導教員は，実習校に出向き，実習時期・内容を決定する。

（3）実習に関する諸資料について

① 実習計画 様式（1）－②

- ・大学院生は大学指導教員の指導を受け，様式（1）－②を作成する。

② 実習日誌・出席簿 様式（2）－②

- ・大学院生は，様式（2）－②の実習日誌を毎日記入する。
- ・実習校指導教員（メンター）等からの指導内容の記録は，その内容について実習校指導教員（メンター）等の確認を受け，指導・修正事項があれば，院生が赤で記入する。
- ・大学指導教員の訪問指導を受けた場合は，教員の名前と指導内容を記録する。
- ・実習校指導教員（メンター）等のコメントの記録は，最終日のみとする。
- ・大学院生は，出席簿を作成し，出席日には必ず押印すること。

③ 評価票 様式（3）－②

- ・実習校指導教員（メンター）および大学指導教員は，様式（3）－②により，大学院生の実習の成果を評価する。

（4）実習に関する諸資料の提出について

実習に関する諸資料の提出先と提出時期は、次のとおりである。

① 実習計画書

実習校と大学指導教員：実習 1 週間前

② 実習日誌

大学指導教員：実習後すみやかに

③ 出席簿

大学指導教員：実習後すみやかに

（評価方法）

実習校指導教員（メンター）による成績評価と大学指導教員の評価を合わせ、最終的には S から F の 5 段階で総合的に評価する。

S（90 点～100 点）、A（80 点～89 点）、B（70 点～79 点）、C（60 点～69 点）、F（59 点以下）とし、S から C までを合格、F を不合格とする。

評価項目については、評価票 様式（3）－②を参照。

5 その他

(実習資料の様式)

(1) 実習の個別計画表

- ・ 学校体験・基盤実習 実習計画書……………様式（１）－①
- ・ 学校教育実践実習 実習計画書……………様式（１）－②

(2) 実習日誌

- ・ 学校体験・基盤実習 実習日誌……………様式（２）－①
- ・ 学校教育実践実習 実習日誌……………様式（２）－②

(3) 実習評価票

- ・ 学校体験・基盤実習 評価票……………様式（３）－①
- ・ 学校教育実践実習 評価票……………様式（３）－②

学校体験・基盤実習 実習計画書

（ ） コース

大 学 院 生	
ふりがな 氏名	学籍番号
連絡先 (TEL)	教員免許・資格等

実 習 校	
期間： 年 月 日 ～ 年 月 日	
学校名	住所 〒
学校長名	電話番号
配属学年・学級：（ ）学年（ ）組 実習校指導教員（メンター）	

学校体験・基盤実習の目標

< 備 考 >

学校教育実践実習 実習計画書

（ ） コース

大 学 院 生	
ふりがな 氏名	学籍番号
連絡先 (TEL)	教員免許・資格等

実 習 校	
期間： 年 月 日 ～ 年 月 日	
学校名	住所 〒
学校長名	電話番号
配属学年・学級：（ ）学年（ ）組 実習校指導教員（メンター）	

学校教育実践実習の目標
実習校の研究課題と研究内容
「課題研究科目」の研究課題と研究内容
実習校の研究課題と各自の研究課題との関連性・共通性等 （学校体験・基盤実習をふまえること）

< 備 考 >

学校体験・基盤実習 実習日誌

年 月 日 (曜日)

1. 本日の目標

2. 本日の内容

時限等	メンター等の氏名	内 容

3. 実習校指導教員（メンター）からの指導内容（大学院生が記録する。）

4. 訪問指導の記録（大学指導教員が訪問指導をした際に大学院生が指導内容と訪問指導から習得したことを記録する。）

5. 実習全体を通じての考察・反省

6. 実習校指導教員（メンター）による指導助言（大学院生が実習終了時に記入し，確認を受ける）

（1）実習校指導教員（メンター）の指導助言

氏名 _____

（2）大学指導教員のコメント

氏名 _____

学校教育実践実習 実習日誌

年 月 日 (曜日)

1. 本日の目標

2. 本日の内容

時限等	メンター等の氏名	内 容

3. 実習校指導教員（メンター）からの指導内容（大学院生が記録する。）

4. 訪問指導の記録（大学指導教員が訪問指導をした際に大学院生が指導内容と訪問指導から習得したことを記録する。）

5. 実習全体を通じての考察・反省

6. 実習校指導教員（メンター）による指導助言（大学院生が実習終了時に記入し，確認を受ける）

（1）実習校指導教員（メンター）の指導助言

氏名 _____

（2）大学指導教員のコメント

氏名 _____

学校体験・基盤実習 評価票

兵庫教育大学大学院

() コース

学籍番号 _____

氏 名 _____

太枠内のみ実習校で記載をお願いします。

	評 価 項 目	満 点	実習校指導教員	※大学指導教員
1	実習の活動状況（出席や態度）	10	／10	／10
2	実習計画	10	／10	／10
3	実習日誌	10	／10	／10
4	実習校への貢献	10	／10	／10
5	実習校における教育活動の特徴の理解	10	／10	／10

年 月 日

実習校名：

実習校指導教員 _____ 印

総合評価点※

実習校校長 _____ 印

年 月 日※

大学指導教員※ _____ 印

(S : 100～90点, A : 89～80点, B : 79～70点, C : 69～60点, F : 59点以下)

※印は大学使用欄です。

学校教育実践実習 評価票

兵庫教育大学大学院

() コース

学籍番号 _____

氏 名 _____

太枠内のみ実習校で記載をお願いします。

	評 価 項 目	満 点	実習校指導教員	※大学指導教員
1	実習の活動状況（出席や態度）	10	／10	／10
2	実習計画	10	／10	／10
3	実習日誌	10	／10	／10
4	実習校への貢献	10	／10	／10
5	研究課題と実習内容との関連	10	／10	／10

年 月 日

実習校名：

実習校指導教員 _____ 印

総合評価点※

実習校校長 _____ 印

年 月 日※

大学指導教員※ _____ 印

(S : 100～90点, A : 89～80点, B : 79～70点, C : 69～60点, F : 59点以下)

※印は大学使用欄です。